



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.28
六甲山を描いて/
浅井審一
2005年7月発行

第28回テーマ:六甲山を描いて



満開のあじさいに囲まれて
スケッチを楽しむ

講演内容

私と神戸とそして「六甲山」

私の「鉛筆スケッチ画」

私の描いた「六甲山」の

あちこち



講師: ^{あさい}浅井 ^{しんいち}審一さん

プロフィール

1928年生まれ。(株)島津製作所定年退職。在職中より京都日曜画家協会の会員として鉛筆スケッチ画を楽しむ。コミスタこうべ、コープこうべ他教室で講師として指導。

実施日:平成17年7月16日(土)

午後1時 ~ 3時30分

場所:六甲山自然保護センター

レクチャールーム

午前中はスケッチ画教室も併催

梅雨明けのまぶしい太陽の下、記念碑台で鉛筆スケッチ画教室を開きました。15名が集まり、京都日曜画家協会の会員浅井審一さんに指導をお願いしました。各自鉛筆と画用紙を持って描きたい場所に座り込み、黙々と描き始めました。個人別にアドバイスを受けながら皆がスケッチに集中。あっという間の2時間で気付けば両腕は日焼けしていました。

浅井さんの姿はスローライフそのもの

浅井審一さんは神戸や六甲山の様々な景色や植物を鉛筆スケッチ画で描かれています。時間を見つけては六甲山へスケッチに出かけて楽しめるそうです。講演ではスケッチ画との出会い、サンテレビで放映された神戸を描いている様子、鉛筆スケッチの楽しさとコツなどをご紹介いただきました。風景とゆっくり語り合っておられる姿からスローライフの楽しみ方を学びました。



浅井さんの作品「六甲山牧場」

スケッチを楽しむきっかけができた

六甲山で描いた花や風景のスケッチ画をスライドでご説明いただきました。どの作品もなじみある風景で親しみを持ってお話を聞きました。講演後はスケッチ画教室の参加者が描いた絵を浅井さんに講評していただきました。

風景をじっくり見つめるという発見

鉛筆スケッチ画を切り口に六甲山で充実した1日を過ごすことができました。日頃景色を眺めたり写真を撮ったりしていますが、じっくりと見つめてはいないことに気づきました。風景を眺めてさらにその一部分を凝視する、スケッチを通じてものの見方や見る態度を学ぶことができました。

詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 井筒 泰子さん

何十年ぶりかの六甲山！最高でした。若い頃には須磨の海で泳ぎ夕方には登山バスで六甲山に登り、星座を探した頃をなつかしく想います。あの頃とはすっかり様変わりしましたが、自然を残し上手に整備され、こんなに身近に楽しめるなんて驚きです。



浅井さんと井筒さんのツーショット

浅井先生のご指導を得て四季折々の姿を描くことができれば幸せに思います。

ひぐらしの 声のなつかしき 六甲山

主催:六甲山自然保護センターを活用する会

協力:兵庫県立人と自然の博物館

後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成